

中田かわら版 6月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<51>

折り紙一筋 50 年

かしわまた み え こ

折紙師範 柏俣美枝子さん (84) 向根下

武具飾る 一系ここに 生きて死に

林 さとり (「大樹」主宰)



5月5日は「端午の節句」。この季節になると思い出すのがこの名句である。兜(かぶと)をみては、折り紙で最初に覚えたのが「かぶと」だった。その後、ツル、ヒコーキぐらいだろうか。そんな自分が、折り紙の神様のような柏俣先生にお会いできたのは5日だった。「5日に折り紙教室があります。教室を見学しながら、お話しませんか」。願ってもない申し出だった。葛野コミュニティハウスで月1回指導。25年間も続いている教室だ。2階のホールで長机を2列に並べ、この日は17人の生徒さんが熱心に制作に励んでいた。今日のテーマは「小銭入れ」。15センチ四方の折り紙とは違って、やや大きめの友禅和紙に裏打ちした裏に定規を使って製図をひき、ハサミ、のりなどを使っての作業。柏俣先生と助手の笠井なよさんが質問者の間を忙しそうに移動、丁寧に説明している姿が印象的だった。約2時間で仕上げるのだとか。出来上がったものを見せてもらおうと幅10センチほどのがっちりした立派なものだった。帰りの時間までに全員が完成させ、楽しそうに帰っていった。「皆さんが一生懸命作った作品を、嬉しそうに眺める笑顔を見ると私も嬉しくなります」



「教えることで自分もいろいろ成長していきます」。楽しそうな話しぶりから、この先生は本当に幸せなんだと思った。

葛野コミュニティハウスの他では「戸塚フレンズ」で月1回、午前は日本折紙協会・講師の指導。午後は折紙愛好者の指導など行っている。



(上) 左 2 人目が柏俣先生
(下) 立って指導する笠井さん

現在の肩書きは「日本折紙協会」折紙師範、同横浜西支部支部長。国学院幼児教育講師、横浜「子供に夢を」事務局長、ジャイカ(JICA・国際協力機構)非常勤講師など。泉が丘幼稚園では副園長を務め、現在退職したが20年務めていた。折り紙に関心を持った動機は、長男が皐月幼稚園に通っていたころ、園にいろいろお世話になった。他の人がピアノや絵を描いて活躍しているのを見て自分は何の資格も持たない。でも、母から教わった折り紙ならば園への恩返し、子供たちにも教えられるかもしれないと。折り紙で

資格を取れるところがあると知り一念発起、猛勉強して資格を取った。今から25年以上前だ。通算すると50年になる。

折り紙は日本人にとって身近でなじみ深い。日本の誇る伝統文化である。折り紙には「折って、観て、遊ぶ」3大要素があると、先生は言う。教えることにもこだわりがあり、実用性を重視する。今回の「小銭入れ」もその一例だ。地域との繋がりを特に大切にしているので親と子供から、感謝されるのが一番うれしいとも。脳と指先を使って思考力の活性化にも良い。高齢社会のいま、その活動範囲は広い。「ところで、折紙以外で先生のご趣味は」。「やっぱり折紙ですかね」50年のキャリアには重みがあった。(宮田貞夫)

～一人ひとりがCO2を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

7月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【第45回子ども水泳教室】

開催日：8月1日(木)～4日(日)9:30～11:30(初回は9:15～)
場所：中田小学校プール 受講料：3000円
対象：小学2～6年生100名(5日間参加の方優先)
主催：泉区スポーツ推進委員連絡協議会
問合せ：090-2442-5847 渡部まで
※参加受付は、7月14日(日)11:30～12:00 中田小学校で行われます。参加者が定員を超えた場合は、抽選になります。

【あさがお・ほうずき市】

開催日：7月6日(土)・7日(日)
雨天決行

時間：9:30～17:00

会場：花や館いざわ

主催：中田花卉組合
中田連合自治会
中田地区社会福祉協議会



■自治会館拝見

地域愛とスポーツで存在感

ここがすごい！下村町内会

下村自治会の創立は昭和40年(1965年)。中田連合自治会創設より2年早い。待望の自治会館は同48年に完成。会館内に一步入って目に付くのが「思無邪」と書かれた大きな額(写真上)と、左の壁にずらり貼られた258人の名前と物品寄贈16名が書かれた芳名板、「下村の名前の由来」の額縁など。氏名、寄付金が描かれた芳名板は古びているが歴史の古さと、どこか温かさを感じさせてくれる。「思無邪」には愛一郎書とあるのは藤山愛一郎氏には違いない。初代会長の鈴木正太さんが、藤山氏の後援会で貢献したお礼というのが定説だ。中西町内会と同様、芳名板にこれだけ多くの人たちが会館建設に努力し、協力したかが分かる。ここに書かれている人の中には、すでに亡くなられた方々もいるだろうが、その親族や子供、孫たちがこれを見て誇りに思うだろう。それは歴史であり、この土地に生きた証でもあるからだ。その意味でも下村町内会の人々の地域愛の素晴らしさがよく分るのである。



(上)藤山愛一郎氏の額

(下)左から森口、小山、渡部、小塚会長の皆さん

取材で訪れた日は、たまたま総会が終わった後だった。森口重瑠さん(中田社協総務)の紹介で13代会長の小塚詔明(のりあき)さん、副会長の小山一雄さんに話を聞くことができた。自治会の生い立ち、日々の活動、スポーツの強さ、「健民祭」(中田連合大運動会)での活躍、「長寿会」(幸友会)の活発な活動など、行事に対して何事も一丸になって協力していくのが「下村」の伝統と強さだ。その話の輪の中へ渡部光徳さん(スポーツ推進委員協議会会長)が加わり、これで「下村の顔」が揃った。話は一段と盛り上がった。皆さんは、とにかく明るく気さくで、話が楽しい。

「下村」を語るには平成28年に発行された創立50周年記念誌「下村の歩み」(～人の絆と世代を繋ぐ町へ～)が最高。A4の1枚綴り、6ページの冊子だが、町内50年史をコンパクトに纏め上げた素晴らしい作品になっている。中身を見せるという意味では、お手本のような記念誌と言える。「下村および中田周辺の歴史」「歴代下村町内会会長一覧」「下村の名前の由来」「50周年記念活動」「これからの下村町内会の目指すもの」「年間行事紹介」(写真10枚)。最後に「地図で

見る下村50年の推移」と25人の編集委員の名前だ。感心したのは「感謝デー」と銘打った楽しい餅つき大会。中田小、伊勢山小の両校に記念で形で残したいとテントを寄贈した。学校からは大へん喜ばれた。後日、教育委員会から心のこもった感謝状が贈られた。

(宮田貞夫)

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！